

図書の修理

名古屋市図書館

2019年7月改訂

1. 本の正しい扱い方～破損を防ぐために～

- ・読む前に手を洗い、汚れや脂が本に付くのを防ぐ。
- ・飲食しながら読まない。食べ物や飲み物のそばに本を置かない。
- ・本を開きすぎない。のどの部分に無理な力をかけない。
- ・しおりひもを出したままにせず、本の間にはさむ。
- ・本を引き出すときは、背の天に指をかけない。本の中央を持って引き出す。
- ・棚から一度にたくさんの本を引き出さない。
- ・本棚につめこまず、余裕をもたせる。すきまができる場合はブックエンドを活用する。
- ・切り取り、落書きをしない。

2. 修理に使用する主な道具・材料

ボンド ★①	修理専用のボンド。必要に応じて薄めて使用する。
筆	平筆の方が狭い部分の修理に使いやすい。
竹串	細かい部分の修理に使用。編み棒など細い棒でも可。
太めの輪ゴム	修理した本を固定する。
大型クリップ	修理した本を固定する。(目玉クリップ・ダブルクリップなど)
修理用テープ ★②	ページ破れの修理に使用。修理する部分によって、幅の広いものと狭いものを使い分ける。
製本テープ	表紙や背の修理に使用。
透明フィルム ★③	表紙のコーティング、補強に使用。
はさみ	のりがつきにくいようコーティングしてあるものがよい。
定規	30～50cm くらいで厚みのあるもの。
カッターナイフ	ページの切り離しなど細かい部分に使用。
のりひき紙	本のページや本体にボンドをぬる時に敷く紙。不要な部分にボンドが付くのを防ぐ。透明フィルムの台紙など表面がつるつるしたものがあるとよい。クッキングシートでも可
消しゴム	鉛筆の落書きを消すために使用。

★①～③ 4pに詳しい説明有り

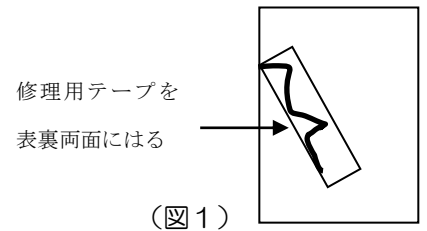
3. 本の修理方法

＊目的は再び利用できる状態にすること。誤った修理は結果的に本を傷めてしまう。

- ・セロハンテープは、変色し本が傷む原因となるので使用しない。セロハンテープが貼ってある場合は、本に影響のない範囲ではがす。(無理してはがすとさらなる破損につながる。)
- ・ボンドは多くつけすぎない。はみ出たらすぐにふき取ること。
- ・破損の状態によっては修理が難しい本もある。どこまで修理するのか見極めることも必要。(廃棄して、同じ本を買いかえることも検討する)

●やぶれの修理

ページのやぶれた部分の両面に修理用テープを貼り、ページからはみでた部分をはさみでカットする（図1）。
表紙がやぶれた場合は、やぶれた部分にあわせて透明フィルムをカットして貼る。



●ページはずれの修理

①はずれたページののどの部分に筆でボンドをぬる（図2）。

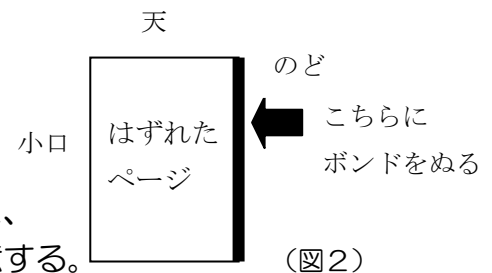
はずれたページに元の接着剤がかたまっている場合は取り除いておく。

②本体とずれないようにページをさしこむ。ボンドが多すぎると、隣のページとくっついたり、ボンドがはみ出たりするので注意する。

*ページがばらばらになっていたら、ボンドをぬる前にはずれたページをそろえてクリップでとめる。ページがそろっているか、前後していないか確認する。

③輪ゴムや大型のクリップで固定し、乾くまで置いておく。

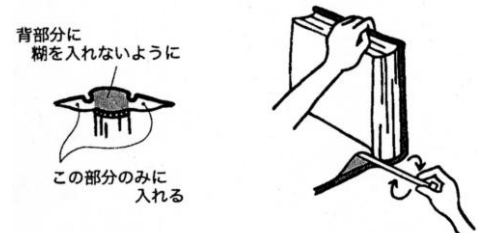
ボンドが乾いたら、ページがきちんとついているかどうか、本を開いて確認する。



●のどの修理

・のどのつなぎ部分がゆるんだ場合

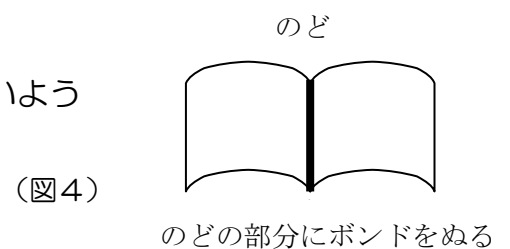
竹串にボンドをつけ、ゆるんだ部分にぬりこむ（図3）。
ボンドが均等に行き渡るように、天と地両方からぬる。
背と本体の間にボンドが入らないようにする。



((図3)は参考資料④より引用)

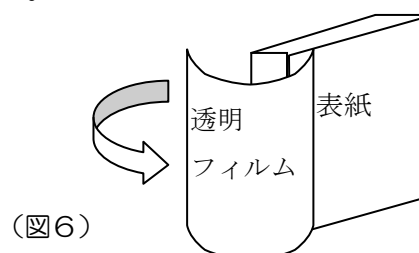
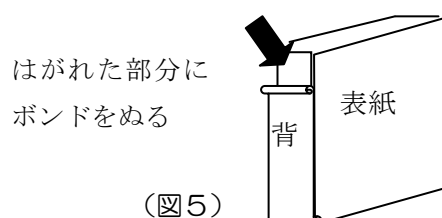
・のどが割れた場合

割れた部分に平筆や竹串でボンドをぬり（図4）、ずれないように本を閉じる。

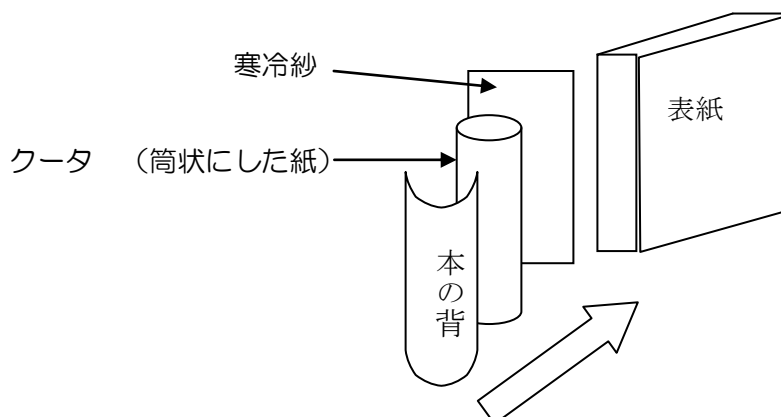


●背の修理

背のはがれた部分にボンドをぬり、本体に貼りつける（図5）。背表紙が欠けていたら、厚紙などを用いて欠けた部分をおぎなう。補強が足りない場合は、透明フィルムや製本テープを貼る。透明フィルムは必要な長さにあわせて切り、背をくるむように貼る（図6）。製本テープの色はなるべく表紙の色とあわせるとよい。

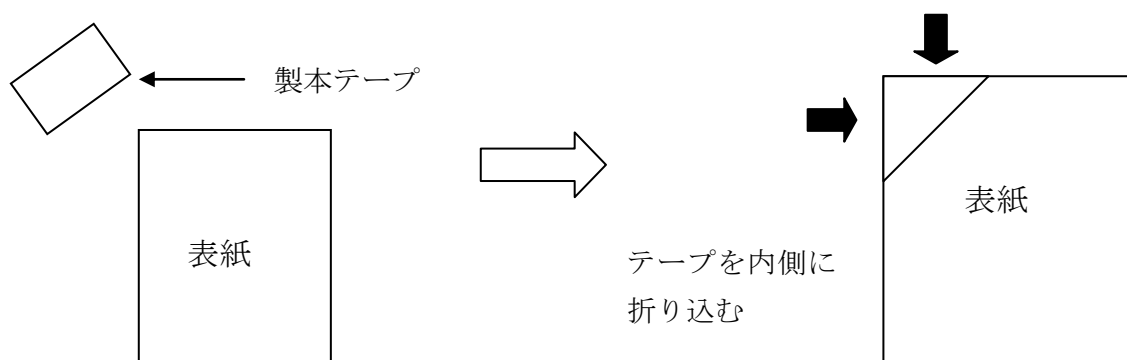


参考：背が全部取れてしまったら、寒冷紗（かんれいしゃ）やクータ（筒状にした紙）を背に貼って補強する方法がある。クータをつけると、背が丈夫になり、開きがよくなる。



●角の修理

表紙の角がはがれたり、傷んで丸くなっている場合に補強を行う。角の大きさにあわせて製本テープを切り、角をくるむように内側に貼りこむ。



●鉛筆の落書き

消しゴムをかける。強くこすると紙を痛めるので注意する。

<参考資料>

- ①『図書館のための簡単な本の修理』高岡容子原案・監修、少年写真新聞社
- ②『図書の修理 とらの巻』NPO 法人書物研究会編、澪標
- ③『美篤堂とはじめる本の修理と仕立て直し』美篤堂著、河出書房新社
- ④『図書館員のための図書補修マニュアル』小原由美子著 教育史料出版会（絶版入手不可）
- ⑤『防ぐ技術・治す技術 紙資料保存マニュアル』『防ぐ技術・治す技術 一紙資料保存マニュアル』編集ワーキング・グループ編 日本図書館協会
- ⑥東京都立図書館ホームページ
「資料保存のページ」
- ⑦横浜市立図書館（旭図書館）ホームページ
「図書修理講座テキスト～簡易修理編～」
- ⑧宮崎県立図書館ホームページ
「本の修理」

修理用品の補記

①ボンド（図書館用製本接着剤）

背を固める場合は原液のままで。ページ外れなどは、少し水を加えると塗りやすくなります。でんぷん糊を入れても。

木工用ボンドでも代用可。

ビニダイン（キハラ）

②修理用テープ

のどの補強、ページの破れの補修に使います。薄いので、貼っても下の文字が読めます。

（セロテープは劣化が早いので、絶対に使用しません）

ページヘルパーP（和紙）

ページヘルパー（ポリエステル）

フィルムプラストP（うすい）

③透明フィルム（ブックコーティングフィルム・ブックカバーフィルム）

本にフィルムを貼ってカバーすると、使用による劣化が防げ、長持ちします。

本の背にだけフィルムをかける方法もあります。（7cm、15cm）

アメニティBーコート（キハラ）

ブッカー（日本ブッカー社）

ブックコートフィルム（埼玉福祉会）